

第4回緑の基本計画改定検討住民会議における課題等対応一覧

No.	該当箇所	修正前	意見及び課題等	事務局及び関係課の見解等	修正後
1	P.1～P.4：第4章 1. 施策の推進プログラム	(記載事項全般)	表中の「実施時期」欄について、後期としている施策の中には前期に対応すべきものもある。施策の実施時期が「前期」「後期」とあるが区分した理由は何か。後期の施策は後回しにしている印象があるので、分かり易い表現に変えたほうがよいのではないかと。	「前期」とした施策は、総合計画に掲載されている施策及び、総合計画には掲載されていないが早期に対応が求められている施策としてしています。その他の新規施策を「後期」としてしています。本計画は20年の長期間の計画であり、社会状況等の変化に伴い施策の重要性も変化することが考えられるため、実施時期は記載しないこととします。	【基本方針1～5 表「実施時期」欄】項目名を「新規・継続」とし、各施策の「新規」と「継続」が分かるような表現に修正を行います。 【1. 施策の推進プログラム 1行目から】施策を確実に実施していくために、計画期間である20年間という長期的な視野にたつて、段階的に進めていく必要があります。そこで、各施策の位置付けを明確にするために、新たに追加するものを「新規」、既に実施しており今後も継続するものを「継続」として整理するとともに、人間市総合計画における施策・事業との関連についても表記しました。
2	P.5：第4章 2. 計画の推進体制 (2) 市民団体の役割	市民ボランティア団体やNPO法人などの団体は、市と連携して積極的に緑地保全や緑化推進活動を行います。	市民団体の役割が実態とは異なっている。市民団体の活動内容は、大きな意味では緑地保全や緑化推進があるが、それ以上に市民意識を高めることを目的とした啓蒙活動の意味合いが強いため、表現を修正すべきである。	市民団体が実施している活動には、市民参加による緑地の保全や維持管理、緑化推進、動植物調査などの活動も多く実施されているので、市民意識を高めることを目的とした普及啓発活動もあることを追加します。	【(2) 市民団体の役割 1行目から】市民ボランティア団体やNPO法人などの団体は、市と連携して積極的に緑地保全や緑化推進活動を行うとともに、市民参加活動を通じて、緑に対する市民意識の向上を図ります。
3	P.5：第4章 2. 計画の推進体制 (4) 市の役割	(記載事項全般)	計画の推進体制の図について、「市民・市民団体・事業者・市」が「連携」としているが、市民の役割は小さく、行政が動かしていかなければ計画は進んでいかない。市の役割は大きいので、市の役割についての記載を追加すべきではないかと。	ご指摘の通り、市の役割が大きいことは認識しておりますので、市の役割についての内容を追加します。	【(4) 市の役割 1行目から】緑の保全と創出に関する施策を、市民・市民団体・事業者の理解と協力を得ながら推進します。また、市が市民・市民団体・事業者の橋渡し役を担い、リーダーシップを発揮することで、各主体が連携した取組みの促進を図るとともに、市民など他の主体が行う活動を支援するための体制づくりや制度の充実に努めます。
4	P6.：第4章 3. 計画の進行管理 (2) 施策の実施状況の評価と公表	(記載事項全般)	5年ごとの施策進捗状況の確認と10年ごとの緑の現況調査及び目標達成状況の確認は分かるが、それとPDCAサイクルとの関連が分かり難い。見直し(ACTION)はいつ行うのか。本計画は20年の長期間の計画であり、人口減少や空き家増加などの社会状況の変化、緑に関する調査方法や精度の向上などが起きることが考えられるため、この計画を柔軟に運用できるような記載とした方がよいのではないかと。	5年ごと10年ごとの施策進捗状況や目標達成状況の点検と評価の結果を踏まえた、施策・事業の見直しを行う予定としています。20年後は社会状況や都市環境などが大きく変わることが予想されています。今後、このような社会状況等に大きな変化が生じた場合には、緑の基本計画も修正する必要があると考えています。そのため、計画を柔軟に運用できるような表現を追加します。	【(2) 施策の実施状況の評価と公表 1行目から】各施策を段階的かつ計画的に実施していくために、定期的に施策の実施状況や緑の現況などの調査を行い、施策進捗状況と目標達成状況を確認し、評価を公表します。 施策進捗状況と目標達成状況の点検と評価の結果を踏まえ、施策・事業内容の必要な改善と見直しを行います。また、社会状況や都市環境の大きな変化に伴う新たな緑の政策課題への対応など、計画内容に大幅な変更が必要と認められる場合は、状況に応じた見直しを行います。
5	改定版(原案) P.75：第3章 基本方針1(3) 施策10 河川の水環境の保全	人間川、霞川、不老川では定期的に水質検査を行っています。昔に比べて水質はよくなっており、多くの生き物が生息できる環境となっています。	「昔に比べて」と表現したとき、年齢の違いなどにより、人それぞれ「昔」と思う時代に食い違いが生じてしまうのではないかと。「昭和の終わり頃に比べて」と表現を変更したほうがよい。	確かに、人それぞれ「昔」と感じる時代は異なると思われるので、表現を修正します。	【基本方針1(3) 施策10 1行目から】人間川、霞川、不老川では定期的に水質検査を行っています。昭和58～60年頃に比べて水質はよくなっており、多くの生き物が生息できる環境となっています。